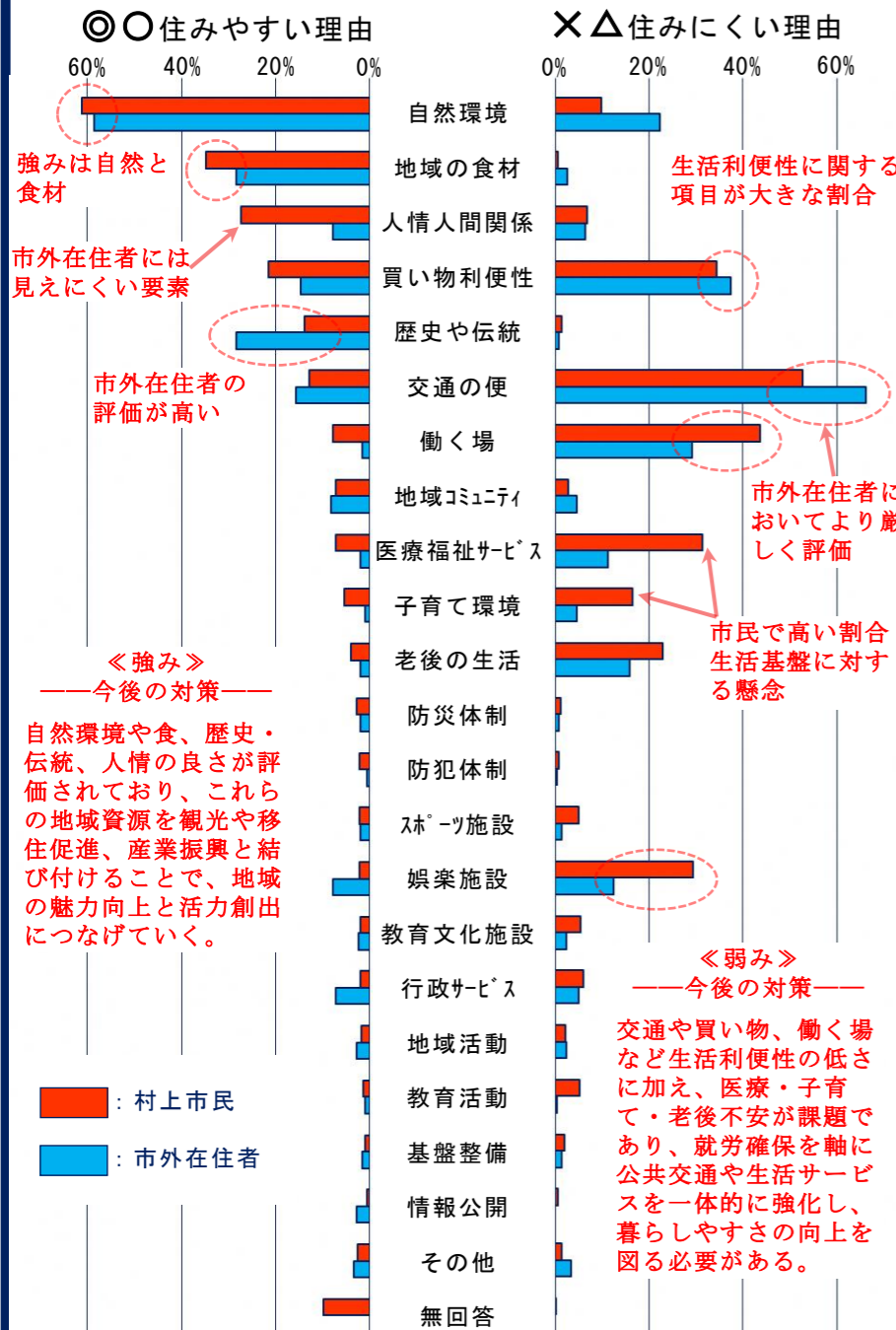
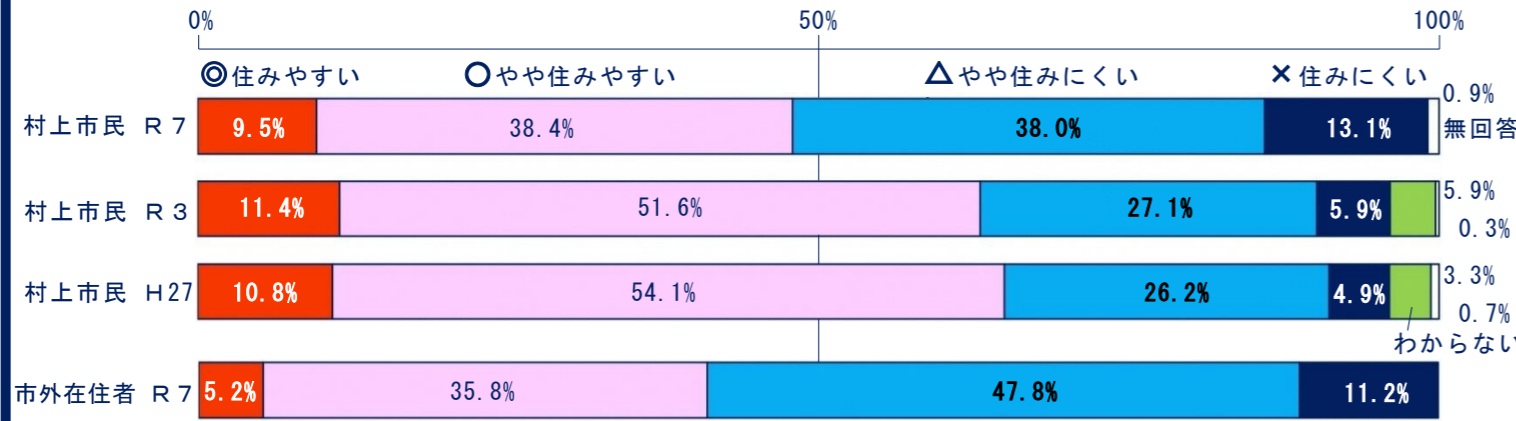


市民・市外在住者アンケート結果

— アンケートから見る本市の現状と課題 —

村上市の住み心地について



全体評価

- R7調査では、肯定的評価47.9%、否定的評価51.1%と、否定的評価が上回る
- H27、R3調査はいずれも肯定的評価が6割超 → 約10年で評価は低下傾向
- 市外在住者は肯定的評価41.0%、否定的評価59.0%と、市民以上に厳しい評価
- ➔ 年度別比較では評価が低下し、市外から見た評価はさらに厳しい結果

住みやすい理由（強み）

- 市民、市外在住者ともに「自然環境」が最も高い評価
- 「地域の食材」「歴史伝統」など地域資源も高評価
- 人情、人間関係は市民で評価が高く、市外には見えにくい内部資源
- ➔ 本市の魅力は、都市的利便性ではなく自然、文化に根差した価値

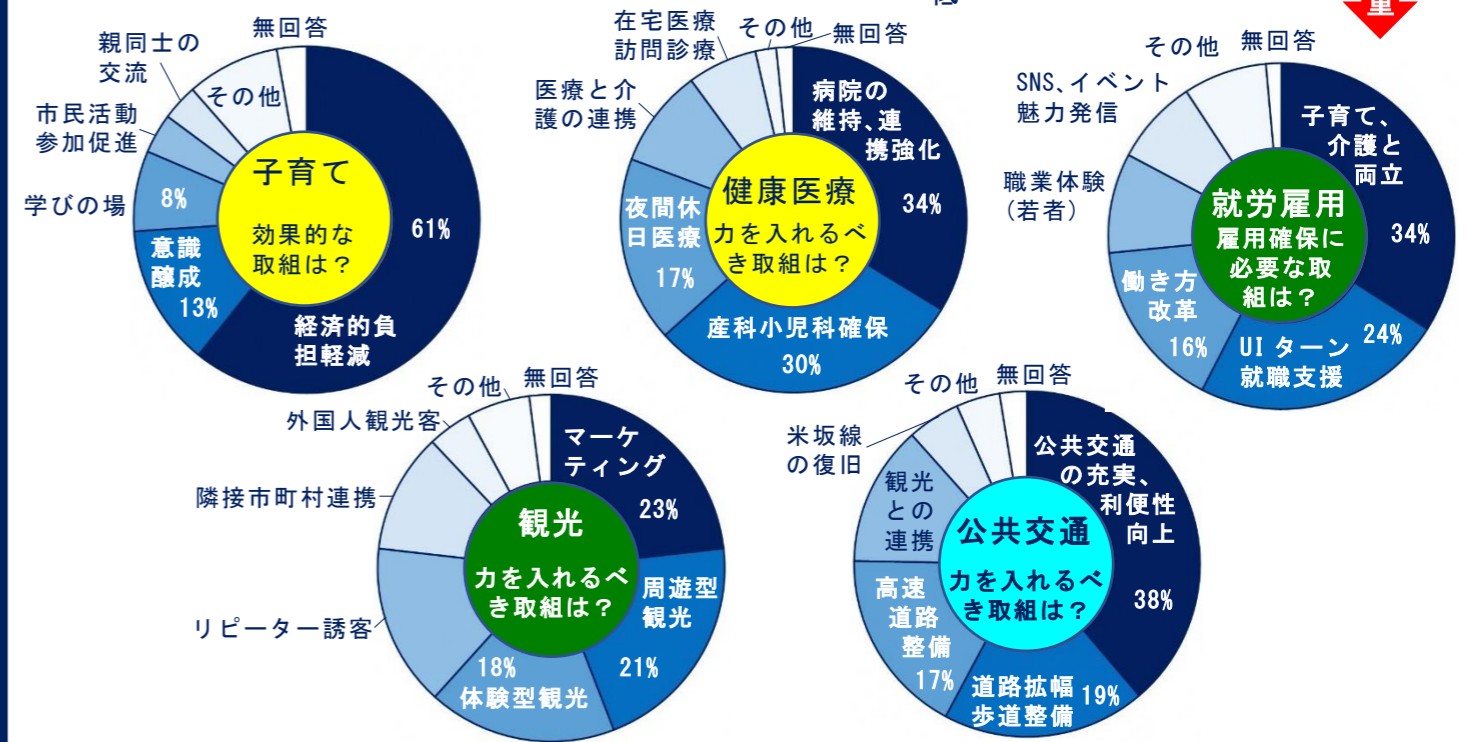
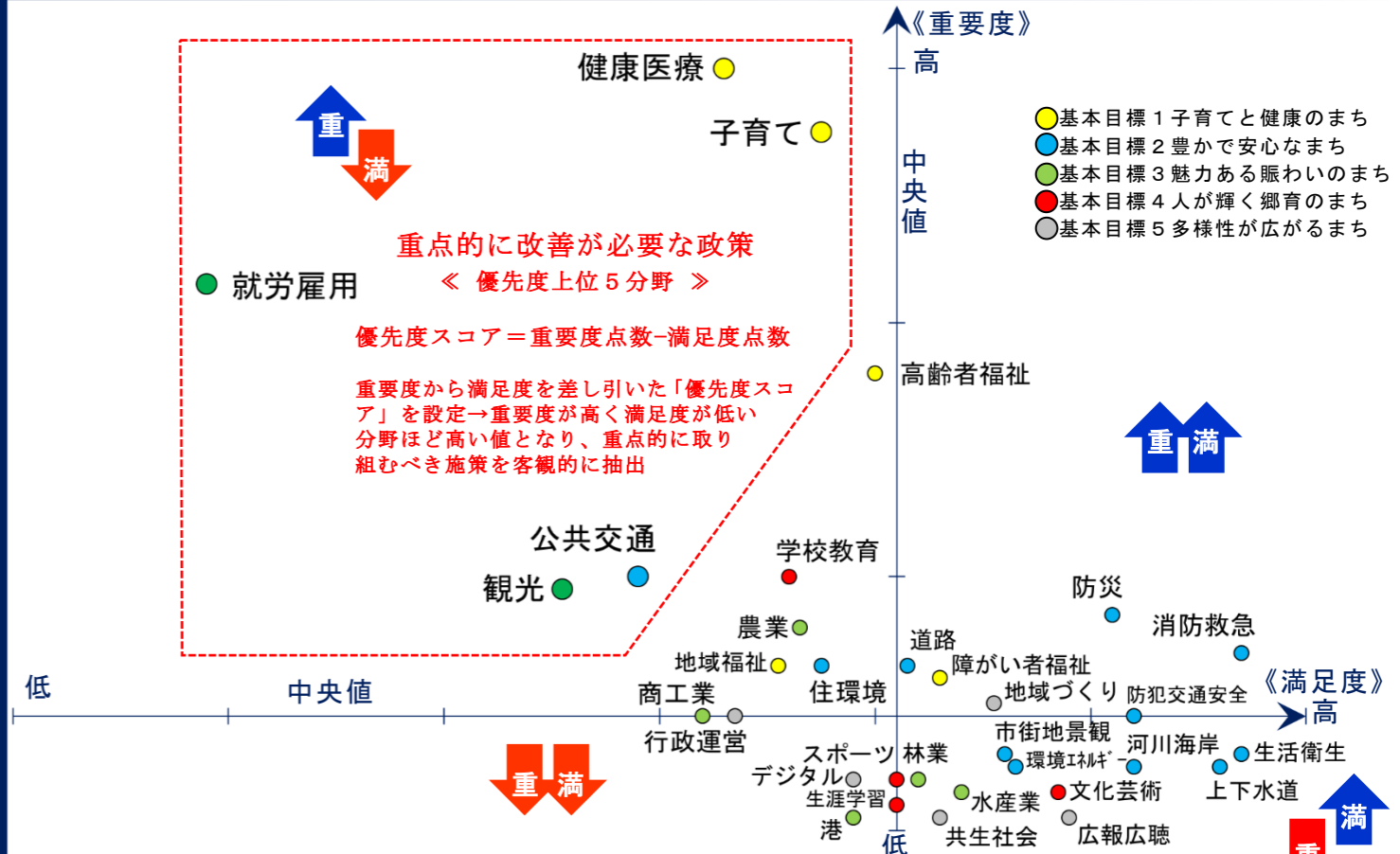
住みにくい理由（課題）

- 「交通の便」「買い物利便性」「働く場」「娯楽施設」など生活利便性が中心
- 特に市外在住者では「交通の便」が強いマイナス要因
- 市民ではこれに加え、「医療・福祉」「子育て」「老後の生活」への不安も顕在
- ➔ 生活基盤全体への懸念が課題

市民と市外在住者の違い

- 方向性は共通だが、重視する視点に違い
- 住みやすい理由
 - 市民：人情人間関係を高く評価
 - 市外：歴史伝統などの魅力の評価
- 住みにくい理由
 - 市民：医療・福祉など将来不安を重視
 - 市外：交通・雇用・娯楽など利便性をより厳しく評価
- ➔ 「外からの評価＝利便性」「内部の評価＝生活の安心」の違いが明確

政策分野別の検証



分析結果（全体）

- 満足度と重要度を数値化し、マトリックス分析を実施
- 重要度が高く満足度が低い分野が一定程度存在
- ➔ 改善の優先度が高い分野を抽出

【重点的に改善が必要な分野】

- 就労雇用, 健康医療, 子育て, 観光, 公共交通
- ➔ 生活基盤を支え、人口減少対策に直結する重要分野
- 特に「就労雇用」は満足度が低く、最大の課題

個別ニーズ（円グラフ分析）

- 就労雇用：仕事と子育て・介護の両立、IUターン支援
- 健康医療：医療体制の維持・充実

課題

- 「働く」「暮らす」「移動する」が相互に影響
- ➔ 生活基盤全体に関わる構造的課題

今後の方向性

- 就労雇用の改善を起点とした取組が必要
- 子育て、医療、交通、観光を横断的に連携
- ➔ 若者、子育て世代の定住促進
- 地域経済の活性化を一体的に推進